

## 学園日誌（平成24年度）

### 主な行事記録

4月2日	前期授業開始	11月4日	学園祭
4月4日	入学式	12月22日～1月6日	冬期休業
7月30日～8月3日	前期期末試験		食農環境科2年生集中実習
8月6日～8月10日	補講期間		食農環境科(有機コース)1年生集中実習
9月	食品栄養科2年校外実習	1月7日	授業開始
8月17日～9月30日	食農環境科2年派遣実習	2月12日～18日	卒業試験
8月11日～9月30日	夏期休業		後期期末試験
	1年食農環境科夏期集中実習	2月22日～3月4日	食品栄養科1年生給食管理学実習
10月1日	授業開始	2月26日～3月2日	食農環境科(有機コース)1年生集中実習
10月1日	後期授業開始	3月6日	卒業式
		3月7日～3月31日	春期休業
			農協派遣実習(1年・JAコース)

### 平成24年度入学状況

#### 1) 入学者数

科 別	志願者数	入学者数
食農環境科	38	32
食品栄養科	38	36
計	76	68

#### 2) 出身校別入学者数

科 別	農業高校	普通高校	その他	計
食農環境科	13	12	7	32
食品栄養科	6	23	7	36
計	19	35	14	68

## 教職員と主な担当授業科目（平成24年度）

### 専任教職員一覧

学園長	近藤博彦
相談役	薄井寛
名誉教授	白田喜代志
名誉教授	高石直良
名誉教授	西村典夫
名誉教授	砂田義雄
名誉教授	坪野敏美
名誉教授	佐藤堯
教務部長	教授 長谷川量平
学生部長	教授 山本英治
事業部長	教授 入江三弥子
事務部長	主事 北川晴三

教務部	部長		
	教授	長谷川量平	フードシステム, 進路
	次長		
	教授	小林秀行	食品学実験, 食品学1・2, 化学
食農環境科	科長		
	教授	假屋喜弘	家畜衛生, 解剖生理, 畜産実験, 家畜生理, 家畜栄養, 家畜人工授精講習会(牛), 家畜体内受精卵移植講習会(牛)
	教授	山本英治	畜産, 家畜人工授精論, 受精卵移植実習, 畜産実験, 家畜人工授精講習会(牛), 家畜体内受精卵移植講習会(牛)
	教授	及川隆光	作物育種, 食用作物, 作物栽培, 有機農業派遣実習
	教授	小川吉雄	作物栽培実験, 植物栄養, 有機農業1, 肥料, 農業経営体派遣実習
	教授	小沼和重	農業機械
	教授	川崎昇三	農業簿記演習, 農業経営, アグリビジネス論, 農業経営診断演習
	教授	佐久間文雄	果樹栽培, 花き栽培
	教授	杉山博茂	畜産物加工実習
	教授	野口貴彦	食品衛生
	准教授	井上洋一	農業協同組合論, 農協福祉・利用事業論, 農協派遣実習
	准教授	中島智	生物, 作物保護, 農産物の安全
	准教授	大熊哲仁	施設野菜, 農業技術入門, 野菜栽培
	准教授	浅津竜子	農産物加工実習
	講師	佐藤利文	家畜飼養, 飼料・飼料作物, 畜産実験, 家畜人工授精講習会(牛), 家畜体内受精卵移植講習会(牛)
	講師	山口朋美	有機農業特別講座

教職員と主な担当授業科目

食品栄養科	科 長		
教 授	野 口 貴 彦	食品衛生学, 食品衛生学実験, 生物, 生化学	
教 授	小 林 秀 行	食品学実験, 食品学 1・2, 化学	
教 授	入 江 三 弥 子	調理学 1・2, 調理学実習 1・2, 給食管理学, 献立作成演習 2, 栄養管理情報システム	
教 授	杉 山 博 茂	食品加工学	
教 授	廣 木 智 子	臨床栄養学実習	
教 授	長谷川 量 平	フードシステム, 情報処理基礎	
准 教 授	若 林 陽 子	応用栄養学, 栄養学実習 1, 栄養指導教育実習	
准 教 授	浅 津 竜 子	基礎調理学実習, 基礎給食管理学, 給食管理実習, 献立作成演習 1, 大量調理学実習, 食品加工実習, 給食管理学校外実習	
准 教 授	井 上 洋 一	経済生活, 職業 (進路)	
助 手	目 黒 周 作	生化学実験, 食品学実験, 食品衛生学実験, 栄養管理情報システム, 献立作成演習 2, 調理学実習 2, 給食管理実習	
助 手	軍 司 さ ね え	生化学実験, 栄養学実習	
主 事 補	田 村 恵 理	基礎調理学実習, 食品加工実習, 農畜産物加工実習, 臨床栄養学実習, 調理学実習 1, 栄養指導, 教育実習, 栄養学実習 2, 給食管理実習	
学生部	部 長	教 授	入 江 三 弥 子 (前出)
学生募集課	課 長	准 教 授	中 島 智 (前出)
学生生活課	課 長	准 教 授	浅 津 竜 子 (前出)
学生食堂係		係長 助手 (実習専任)	大久保 美 保 給食管理実習, 大量調理実習
		主 事 補	内 田 ますみ 給食管理実習, 大量調理実習
		主 事 補	渡 邊 み き
		主 事 補	伊 藤 しおり
就農等支援課	係 長	講 師	浦 田 仁 (前出)
事業部	部 長	教 授	山 本 英 治 (前出)
	次 長	教 授	及 川 隆 光 (前出)
事業企画課		課長 准教授	大 熊 哲 仁 (前出)
企画係		係長 准教授	大 熊 哲 仁 (前出)
		主 事 補	増 渕 佑 也
加工係		係長 教授	杉 山 博 茂 (前出)
		主 事 補	丹 祐 太 郎
直売所		店長 主事補	増 渕 佑 也 (前出)
レストラン		店 長	原 田 重 利
		主 事 補	小 島 祐
研修課	課 長	教 授	小 沼 和 重 (前出)
実技研修係		係長 主事	佐久間 もと子
		講 師	羽 生 重 雄
		主 事 補	谷 津 尚 子
		主 事 補	国 分 淳 一
		主 事 補	中 島 崇 志

国際研修係	係長 教授	小沼和重 (前出)
	教授	長谷川量平 (前出)
	准教授	井上洋一 (前出)
	主事	佐久間もと子 (前出)
作物・園芸課 課長	教授	及川隆光 (前出)
作物・園芸係	係長 講師	秋葉勝矢 農場実習, 農業技術演習
	講師 (実習専任)	田山和美 農場実習
	講師 (実習専任)	鈴木一広 農場実習
	講師 (実習専任)	高田信廣 農場実習
	主事 補	中芳裕 農場実習
	主事 補	小室拓海 農場実習
畜産課 課長	講師	佐藤利文 (前出)
畜産係	係長 講師	佐藤利文 (前出)
	講師 (実習専任)	広瀬勇祐 農場実習
	講師 (実習専任)	磯野卓司 農場実習
	助手 (実習専任)	丸山正剛 農場実習
	主事 補	石崎義規 農場実習
事務部 部長	主事	北川晴三
総務係	係長 主事	齋藤亮一
	講師 (実習専任)	藤枝進
	主事	森典一
	主事 補	杉田理恵子
教務学生係	係長 主事	広瀬町子
	主事 補	柳林ふちみ

非常勤職員一覧

食農環境科

川 村 隆 一	新規就農	県農業会議
代 永 道 裕	資源循環	元畜産草地研究所
阿 部 四 郎	農協法令	(社)JA 総研客員研究員
金 氣 興	環境保全型農業	東京大学東洋文化研究所研究員
森 英 紀	家畜育種	茨城大学講師
相 原 延 英	農業政策農畜産物流通	東京農工大学農業市場学研究室
中 村 統 一	農協簿記論	元茨城県農協中央会
木名瀬 一 雄	農協経済事業論	元農協五連室長
瀬 谷 俊 雄	農協指導事業論	元全国農協連茨城県本部
齊 藤 努	農協監査論	元茨城県農協中央会
藤 木 千 草	農業関係法令	ワーカーズコレクティブ ネットワークジャパン事務局長
細 谷 正 人	農協信用・共済事業論	元茨城県信用農業協同組合連合会
福 間 莞 爾	農業協同組合論	元全国農協中央会常務理事
小 山 眞一郎	生物	プレス・クライブ・ゲノミックス K.K
廣 木 政 昭	繁殖生理	元鯉淵学園教授
高 光 治 秀	農協会計論	元農林中央金庫
涌 井 義 郎	有機農業 2・3	元鯉淵学園教授

食品栄養科

大 津 実恵子	保健体育	元大成女子高校教諭
千 葉 茂	基礎栄養学	常磐大学教授
宮 崎 章 夫	発達心理学	茨城大学准教授
市 毛 啓 子	公衆栄養学	茨城県立看護専門学院講師
植 田 和 子	栄養教育論	元鯉淵学園教授
大 津 音 江	臨床栄養学各論	西山苑管理栄養士
久 米 京 子	健康管理概論	日立市役所管理栄養士
小 島 英 一	国語表現	陶芸家
坂 田 由美子	外国語表現	元高校教諭
根 本 久美子	公衆衛生	元茨城県北食肉衛生検査所長
古 橋 雅 子	解剖生理	つくばメディカルセンター
木 村 競	社会倫理	茨城大学教授
舘 治 彦	病理学	たち医院院長
平 井 栄 一	運動生理学	
宮 口 右 二	生化学実験	茨城大学准教授
石 川 祐 一	臨床栄養学総論	日立製作所日立総合病院栄養科長
井 上 隆 弘	食材生産	元鯉淵学園

## (財)農民教育協会 鯉淵学園農業栄養専門学校概要 (平成24年度)

1. 場 所 茨城県水戸市鯉淵町 5965
2. 面 積 49.5 ヘクタール
3. 設置形態 専修学校 (茨城県知事認可)  
 農業者研修教育施設 (農林水産大臣認定)  
 栄養士養成施設 (厚生労働大臣認可)  
 特定公益増進法人 (農林水産大臣認可)

#### 4. 建学の理念

- ・ヒューマニティを基調とした、広い視野と科学的な考え方と実践力を育成する
- ・多数の人々と協力して農と食の改善発展に寄与できる指導力を育成する

#### 5. 教育組織

- 食農環境科 (高校卒・2年制) 入学定員 90名  
 (有機農業コース, アグリビジネスコース, JA コース)
- 食品栄養科 (高校卒・2年制) 入学定員 40名
- 研 究 科 若干名

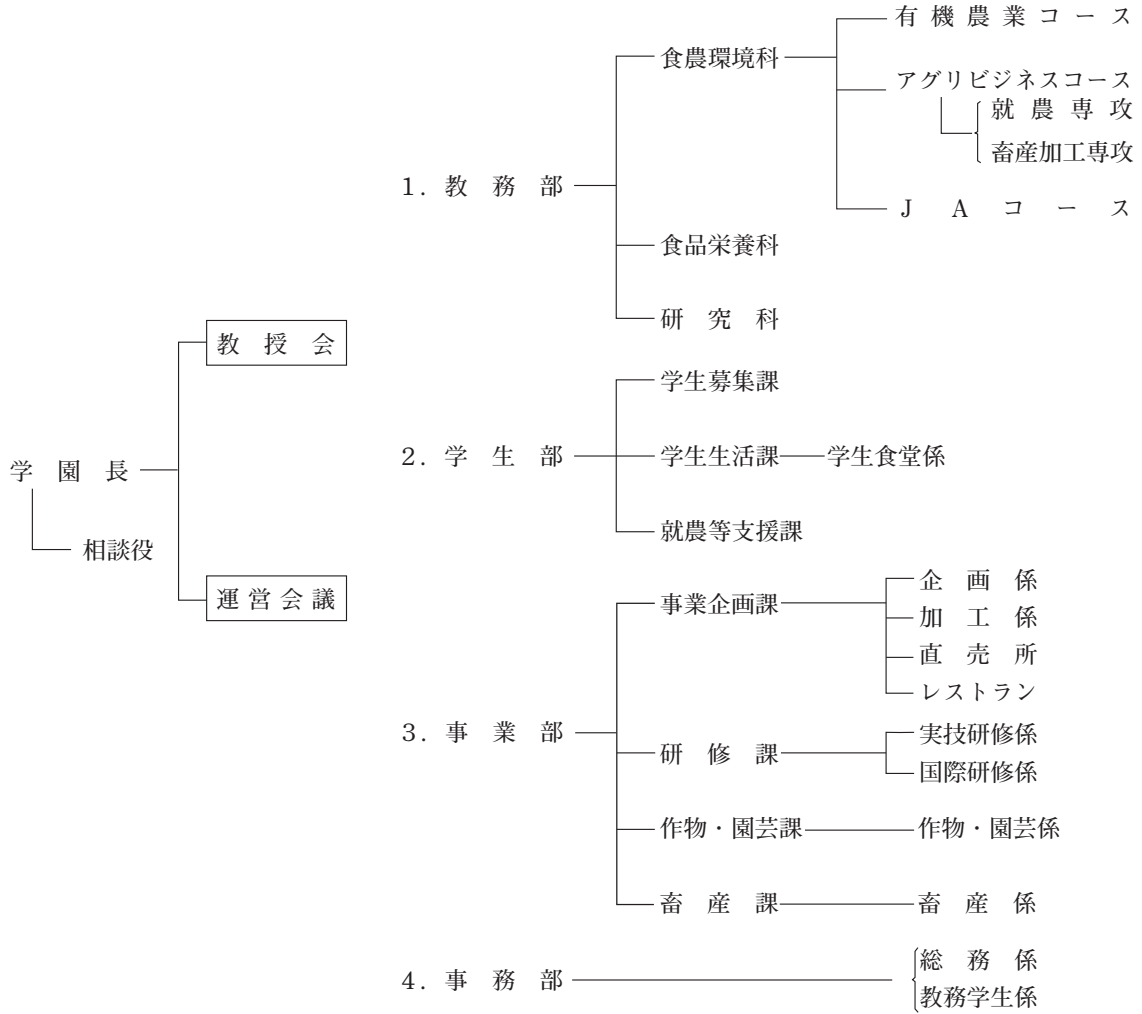
#### 6. 主な取得資格

- 2年制課程修了者には「専門士」の称号が授与される。  
 食品栄養科卒業生には栄養士資格が授与される。

#### 7. 在籍学生数 (平成24年4月4日現在) ( ) 内は女性で内数

	1年	2年	合 計
食農環境科	32 ( 7)	38 ( 6)	70 (13)
食品栄養科	36 (29)	35 (28)	71 (57)
小 計	68 (36)	73 (34)	141 (70)

8. 管理運営組織



(助)農民教育協会 会長 萬歳章 理事長 高橋隆三  
 学園長 近藤博彦  
 相談役 薄井寛  
 教務部長 長谷川量平  
 学生部長 入江三弥子  
 事業部長 山本英治  
 事務部長 北川晴三

9. 職員数 (常勤職員 56名)

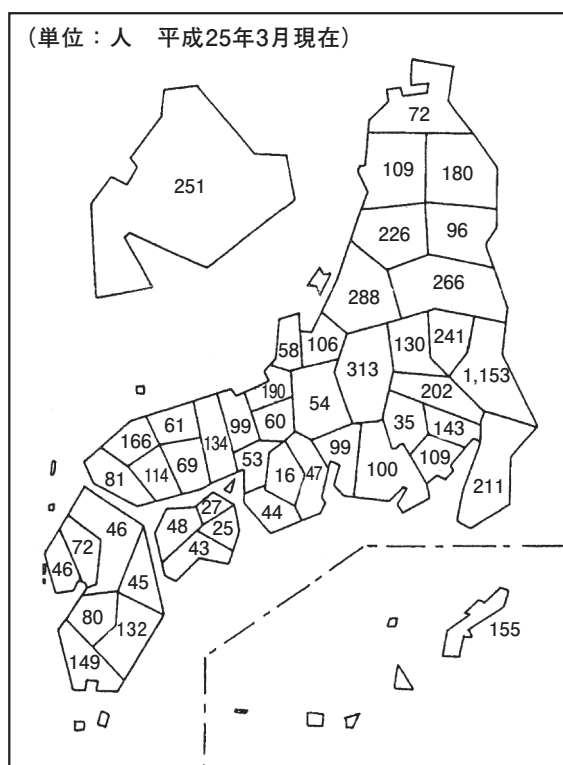
学園長	1名		
相談役	1名		
教育職員	47名		
教授	13名		
准教授	5名		
講師	5名	講師(実習専任)	6名
助手	3名	助手(実習専任)	2名
事務職員	7名		主事補 13名
主事	5名		
主事補	2名		
非常勤講師	33名		

10. 主な教育・研修施設（農場部を除く）

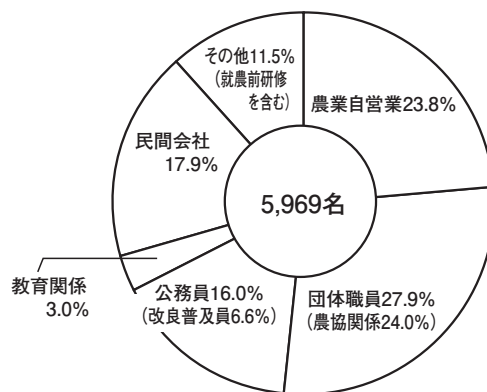
総合教育棟	1棟 (702㎡)	教室棟	3棟 (1,610㎡)
実験・研究棟	1棟 (872㎡)	生物工学実習棟	1棟 (180㎡)
調理実習棟	1棟 (176㎡)	生活実習棟	1棟 (245㎡)
畜産加工棟	1棟 (168㎡)	食品加工棟	1棟 (105㎡)
図書館（情報教室付設）	1棟 (615㎡)	体育館	1棟 (814㎡)
購買部	1棟 (59㎡)	男子学生寮	7棟 (3,196㎡)
女子学生寮等	6棟 (2,338㎡)	女子寮内浴場等	1棟 (169㎡)
学生食堂	1棟 (643㎡)	学生集会室	1棟 (108㎡)
食品総合実験棟	1棟 (307㎡)	体験学習棟	1棟 (168㎡)

11. 卒業生の状況

全国に広がる卒業生のネットワーク



卒業後の進路



注①卒業時調べ。  
 ②昭和61年度からは普及専攻科卒業を含む。  
 (平成25年3月現在)

卒業生就職状況（卒業時調べ）

卒業生 (平成)	農業自営		団体職員		公務員		教育関係	民間会社	その他		進学	合計
	自営	法人	農協職	その他	普及員	その他			A	B		
20年度まで	1,356		1,413	235	395	558	166	922	594		—	5,639
21年度	6	4	4	0	0	0	3	28	0	17	—	62
22年度	4	5	3	0	0	0	3	47	0	29	—	91
23年度	11	22	5	0	0	1	5	37	5	19	—	105
24年度	1	9	4	1	0	1	1	33	1	10	11	72
合計 (%)	1,418 (23.8)		1,429 (24.0)	236 (4.0)	395 (6.6)	560 (9.4)	178 (3.0)	1,067 (17.9)	675 (11.3)		11 (0.2)	5,969 (100)

注 ①「その他A」は、国内または海外の研修に出た者で、農業自営志向者であり、将来「農業自営」に加わると見られる者。

②「その他B」は、卒業時進路未決定者。



## 12. 開設授業科目

### 食農環境科

#### 基礎分野

情報処理基礎, 社会活動, 進路, 生物, 環境美化

#### 専門分野

作物栽培, 有機農業1・2・3, 畜産, 農業経営, 新規就農, アグリビジネス論, 農業政策・農畜産物流通, 農業簿記演習, フードシステム, 食品衛生, 資源循環, 環境保全型農業, 農産物の安全, 食用作物, 農業機械, 野菜栽培, 果樹栽培, 肥料, 作物育種, 有機農業特別講義, 作物保護, 農業協同組合論, 花き栽培, 施設野菜, 植物栄養, 家畜生理, 家畜衛生, 家畜飼養, 家畜栄養, 繁殖生理, 解剖生理, 家畜発生, 家畜育種学, 細胞工学, 家畜人工授精論, 飼料・飼料作物, 農協法令, 農協信用・共済事業論, 農協経済事業論, 農協福祉・利用事業論, 農協簿記論, 農協監査論, 農協監査論, 農協指導事業論, 農業関係法令, 農業経営診断演習, 作物栽培実験, 農業機械実習, 農場実習, 農場管理実習, 集中実習1・2, 有機農業集中実習, 農産物加工実習, 農業技術演習, 有機農業派遣実習, 農業経営体派遣実習, 畜産実験, 畜産物加工実習, プロジェクト学習, 農協派遣実習, 受精卵移植実習, 家畜人工授精講習会(牛), 家畜体内受精卵移植講習会(牛)

### 食品栄養科

#### 基礎分野

国語表現, 社会倫理, 情報処理基礎, 社会活動, 環境美化, 職業(進路), 生物, 化学, 入門ゼミ, 外国語表現, 保健体育

#### 専攻専門

公衆衛生学, 経済生活, 食材生産, 健康管理概論, フードシステム, 発達心理学, 解剖生理学, 運動生理学, 生化学, 病理学, 生化学実験, 食品学1・2, 食品加工学, 食品衛生学, 食品学実験, 食品衛生学実験, 食品加工実習, 基礎栄養学, 応用栄養学, 臨床栄養学総論, 臨床栄養学各論, 栄養学実習1・2, 臨床栄養学実習, 公衆栄養学, 栄養管理情報システム, 栄養教育論, 栄養指導教育実習, 基礎給食管理学, 給食管理学, 調理学1・2, 献立作成演習1・2, 基礎調理学実習, 調理学実習1・2, 大量調理学実習, 給食管理学実習, 給食管理学校外実習

#### 【取得単位(履修授業時間)数】

(講義: 1単位15時間, 演習: 1単位30時間, 実験・実習: 1単位45時間)

食農環境科, 有機農業コース	86 単位 (2490 時間)
同 アグリビジネスコース	91 単位 (2535 単位)
同 J A コース	92 単位 (2430 単位)
食品栄養科	94 単位 (2010 時間)

### 13. 農場部の概要

実習教育方針：教職員と学生が相協力して、生産から調整・貯蔵（加工）及び利用（販売）に至るまで技術と農業経営を体系的に研究的・実践的態度で探究する場であり、併せて人間形成の場でもある。

実習科目：食農環境科（農場実習，集中実習，有機農業集中実習，農場管理実習など）  
食品栄養科（食農教育実習）

試験研究：家畜（牛）排せつ物の堆肥化ならびに処理方法に関する調査研究，施設野菜栽培における完熟堆肥利用とその効果について，など

農畜産物の販売（平成 23 年度実績）

合計 6,467 万円（作物・園芸課 1,367 万円，畜産・加工課 5,100 万円）

#### ① 作物・園芸係

全体面積 10.2 ヘクタール

水田 354 アール

コシヒカリ，ミルキーQueen，マンゲツモチなど

普通畑 461 アール（うち，70 アール 有機 JAS 認証ほ場）

露地野菜：キャベツ，ハクサイ，ネギ，ダイコン，ニンジン，ジャガイモ，サトイモなど

果樹園 156 アール

ナシ，ブドウなど

ビニールハウス 2,500 m<sup>2</sup>

キュウリ，トマト

ガラス室 661 m<sup>2</sup>

育苗施設，苗物

施設 事務室，実習教室，施設野菜実習管理棟，収穫調整室，農機具庫，堆肥舎，収納舎

主要農器具 トラクタ，側条施肥田植機，自脱型コンバイン，刎乾燥機，マニユアスプレッダ，トレンチャ，スピードスプレア，ホイールローダ，トラックなど

#### ② 畜産・加工課（酪農係，肉畜係，加工係）

面積 13.5 ヘクタール（内飼料畑 12.0 ヘクタール）

家畜 乳牛 75 頭（成牛 46 頭）

肉牛 45 頭（黒毛和種）

施設 管理室，実習教室，実験教室，農機具庫，飼肥料庫，発酵堆肥舎，サイロ，畜産バイテク室

畜舎 成牛舎，育成牛舎，肉牛舎，黒毛和種繁殖牛舎，繁殖豚舎，肥育豚舎

主要農器具 トラクタ（5 台）

フォーレージハーベスタ，バキュームシーダー，ハイベアラ，ロータリーテッダ，サイドスプレッダー，ロールベアラ，ラッピングマシン，フォーレージブロア，ボトムプラウ，リバーシブルプラス，ロータリー，ディスクハロー，カルチベータ，サブソイラ，ブロードキャスター，バキュームカー，ブームスプレイアー，4 輪トレーラー，シュートワゴンなど

## 鯉淵学園 教育研究報告 編集規程

第1条 鯉淵学園農業栄養専門学校〔以下「本学園」と称する〕は、本学園職員等の教育・研究の成果その他を公表するため、鯉淵学園 教育研究報告〔以下「報告」と称する〕を年1回発行する。

第2条 本学園に報告編集委員会〔以下「委員会」と称する〕を置く。

第3条 委員会は、学園長が指名する編集委員長1名と編集委員若干名及び編集幹事長1名と編集幹事若干名をもって構成する。ただし編集長は、科長の中より指名する。

第4条 委員会の構成員の任期は3年とする。ただし重任を妨げない。

第5条 委員会の次の各号を行う。

- (1) 報告の編集計画及び執筆の依頼
- (2) 投稿論文の審査の依頼
- (3) 投稿論文の掲載可否の審議

第6条 委員会は編集委員長が召集し、議長は編集委員長がこれにあたる。編集委員長事故ある時は、予め編集委員長が指名した委員がこれに当たる。

第7条 委員会は委員の過半数を持って成立し、議事は出席委員の過半数の同意を持って決する。可否同数の場合は議長がこれを決する。

第8条 編集幹事長及び編集幹事は、報告の印刷・発行・配布などに関わる業務を行う。

第9条 報告の投稿規程は別に定める。

第10条 この規程の改正は、教授会の審議を経て、学園長が行う。

付則

この規程は平成7年4月1日より実施する。

この規程の改正は平成7年11月14日より実施する。

## 鯉淵学園 教育研究報告 投稿規程

1. 投稿者は鯉淵学園農業栄養専門学校の現・旧職員〔非常勤講師を含む〕、学生・同窓生を原則とするが、編集委員会からの依頼原稿についてはこの限りではない。
2. 本誌には以下の項目を掲載する。
  - 1) 農業・生活に関する研究報告、調査報告
  - 2) 農業・生活に関する解説、総説、随想
  - 3) 鯉淵学園農業栄養専門学校の研究・教育及び事業に関する記録
  - 4) 鯉淵学園農業栄養専門学校に関する広報
3. 研究報告と調査報告は未発表のものに限る。
4. 投稿原稿は掲載可能かどうか審査されるが、最終的な採否は編集委員会が決定する。編集委員会は投稿原稿につき訂正を求めることができる。
5. 本誌の発行は年1回で3月とし、投稿締切は10月31日とする。投稿原稿は正副2部を鯉淵学園教育研究報告編集委員長〔〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町5965鯉淵学園〕あて提出もしくは送付する。
6. 投稿原稿は執筆要領に準じて執筆されたものとする。
7. 著者校正は原則として初校だけとし、校正は誤植の訂正だけにとどめ、内容の変更は認めない。
8. 別刷は30部を無償とし、それ以上を希望する場合は著者負担とする。

## 鯉淵学園 教育研究報告 執筆要領

1. 論文の長さは、図表を含めて原則として刷り上がり10頁以内〔1頁は400字詰め原稿用紙で4枚程度〕とする。ワープロの場合は、フロッピーも一緒に提出する。原稿用紙には通し番号を付け、用紙右上隅に著者名を書く。
2. 原稿は和文で横書き口語体とし、特殊な用語以外は原則として当用漢字を使用する。動植物名、外来語、外国の地名、人名〔原語によらない場合〕はカタカナを用いる。
3. 学術用語・専門用語は、各学会の用語集のほかそれぞれの専門分野の使用方に準ずる。
4. 本文の書き出しおよび改行の場合は1マスあける。符号見出し番号と本文の間も1マスあける。符号〔句読点・かっこ・中点・ダッシュなど〕は1マスをあけるが、欧文小文字および洋数字は1マス2字をあてる。句読点〔、。〕を用いる。本文中の項目が変わる時は1行あけて次の見出しを書く。ただし細分された小見出しはこの限りではない。見出しには1行あてる。
5. 単位はC.G.S.単位を用い、原稿用紙1マスに2字を入れる〔例 ml〕。
6. 投稿原稿は次の通りにする。

原稿1ページ目には表題、著者名、所属とその住所を記載する。

原稿2ページ目から本文として、自然科学分野の研究報告および調査報告は、緒言、材料および方法、結果、考察、摘要、引用文献の順序を、社会科学分野の論文および報告文は、緒言、本論、結論、要旨、引用・参考文献の順序を基本とする。各種解説・総説・随想その他は自由とする。謝辞は緒言の末尾に入れる。
7. 本文の見出し、小見出しのランクは次のようにする。

I, 1., (1), 1), ①
8. 引用文献〔参考文献〕は引用順に配列し、通し番号を付す。

文献は次のように記す。

  - 1) 雑誌引用の場合  
著者名(西暦年号), 表題, 雑誌名 巻 頁〔例: 3-8〕
  - 2) 単行本引用の場合  
著者名(西暦年号), 書名, 発行所 引用頁〔例: pp. 5-15〕
  - 3) 編著本引用の場合  
著者名(西暦年号), 表題, 書名〔編者名〕発行所 引用頁
  - 4) 資料等の引用の場合  
資料名(西暦年号), 発行所 引用頁
9. 本文中の文献引用箇所に、文献番号を肩付き方括弧〔例:<sup>1)</sup>〕で示す。
10. 表・図・写真は次のとおりとする。
  - 1) 表と図の重複は避ける。
  - 2) 表・図は本中に書き込まない。表はA4判用紙に1表ずつ書く。図は1図ずつA4判の薄手の白紙に張り、欄外に希望縮尺比等の指示事項を記す。写真および図の説明は別のA4判用紙に書く。
  - 3) 表・図・写真は、一括して原稿末尾に表、図、図説明、写真、写真説明の順に添付し、本文に続く通し番号を付し、用紙右上に著者名を書く。
  - 4) 表・図・写真の本文中への挿入箇所は、原稿用紙の当該位置の右欄外に図・表・写真の各番号を朱書して示す。
  - 5) 表・図は表1, 図1のように記し、題名は表では表の上に、図では図の下に記す。
  - 6) カラー印刷は著者の実費負担とする。

## 鯉淵学園 教育研究報告 編集委員会

委員長 小川 吉雄 (土壌・環境)  
委員 假屋 喜弘 (家畜衛生)  
委員 入江 美弥子 (調理・食生活)  
幹事 井上 洋一 (農村社会)  
幹事 山口 朋美

### 編集後記

中国の大気汚染が大きなニュースとしてマスコミを賑わせている。1960年後半から1970年代にかけて日本が経験した、まさに「この道はいつか来た道」である。

長く農業に携わっていると、気象の変化に敏感になる。大気中の二酸化炭素濃度が400ppmを超えるようになり、温室効果が大气や水の循環を狂わせ、気候変動に影響を与えている。我が国においても、ここ数年季節の変化が1月ほど遅れる現象が続き、暦と一致しない季節感覚のづれを体験している。さらに、春と秋はひと月ほどしかなく、あとは真夏と真冬といった感じである。気象用語の「今までに経験したことがない・・・」というフレーズが流行語にもなったくらいである。

今号の報告内容を見ると、生産現場の周辺が混沌としてきている感が否めない。薄井：飢餓・食糧難の歴史教科書記述に関する問題提起は、もう一度農業とはと私たちが再考する良い機会を与えてくれる。小林： $\alpha$ -ガラクトシダーゼ、浦田：介護サービス、入江：高齢者の食と健康は、農医連携に結びつく貴重な論文である。また、井上：鯉淵学園の思い出は鯉淵学園の歴史書にもなっている。

関係各位の積極的な投稿に感謝する。この勢いで鯉淵学園の更なる発展を期待したい。

(編集委員会委員長 小川 吉雄)

---

## 鯉淵学園 教育研究報告 (略称：鯉淵研報) 第29号

発行日 2013 (平成25) 年 3月31日  
編集人 小川 吉雄  
発行所 鯉淵学園農業栄養専門学校  
学園長：近藤 博彦  
〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町5965  
電話 029-259-2811 FAX 029-259-6965  
<http://www.koibuchi.ac.jp/>  
印刷所 水戸市松が丘2-3-23  
佐藤印刷株式会社 (電話 029-251-1212)

---